

大きな3枚の桜の葉に包まれて、趣のある杉箱に鎮座するのは江戸の世に生まれた桜もち。一番上の葉をちらとめくると、中には白肌の桜もちがはんなりとした佇まいで収まっている。江戸っ子は塩漬けの葉っぱごといただくのが粋とのわか仕込みの情報に従い、通ぶつてかぶりつこうか、やはりここは純粹に味わうべきか……。しばらく眺めて思案していると、見兼ねた女将さんが、「葉っぱはね、香りづけと、生地が乾燥しないように包んでいるんですよ。3枚一緒だと塩辛いでしょうね。何も巻かずに半分食べて、残り半分に葉を一枚巻いて召し上がる方もいらつしゃいますよ。お好みでどうぞ」。その言葉どおり、まずはそのまま半分。塩漬けされた葉の移り香が鼻腔をくすぐる。残りに葉を巻いて一口で頬張ると、またひと味違う甘じよっぱさが口に広がった。

隅田川の畔で江戸時代から庵をかまえる長命寺桜もち「山本や」は、三世紀近く経た今も変わらず桜もち一筋の老舗である。江戸情緒漂う向島界限は文人たちに愛されていたが、なかでも明治の歌人、正岡子規は桜の名所、隅田川の景色によほど惚れ込んだのか、明治21年夏の間、「山本や」の2階に逗留していたという。

花の香を 若葉にこめて かぐはしき
桜の餅 家づとにせよ

当時詠んだこの句から、春が過ぎ葉が繁る桜並木を眺めながら、子規が味わった花の香が匂い立つようである。

長命寺桜もち「山本や」 墨田区向島

創業者の山本新八が、享保一年に土手の桜の葉を用いて考案し、長命寺の門前にて売り始めたのが江戸における桜もちの始まりといわれる。

<http://www.sakura-mochi.com>

撮影：スクーデリア



菓子で綴る 東京歳時記。



目次

- 2 ◎菓子で綴る東京歳時記。
- ◎長命寺桜もち
- 3 ◎巻頭インタビュー：元気の源を聞いてみました
土居利光さん「恩賜上野動物園園長」
- 6 ◎大人の社会見学ルポ・舞台裏探検隊が行く！
パイロット・万年筆工場の舞台裏
- 8 ◎e！食同源
花粉症改善を目指す。
- ◎共済組合からのお知らせ
第2回・第3回支部運営審議会の報告
- 10 平成28年度予算・事業のあらまし
- 11 平成28年度公立学校共済組合東京支部の保健事業について
人間ドックのご案内
- 12 傷病手当金及び出産手当金について
- 13 掛金率等の改定
- 14 平成27年度末に退職される方の健康保険の手続について
新たに組合員になられた皆さまへ
- 15 昭和36年4月1日生まれまでの方へ
医療費の返還について
- 16 出産費・家族出産費の給付について
貸付事業のご案内
かがやきメイト通信
- 17 ◎東京都教育委員会からのお知らせ
メンタルヘルス対策事業のご案内
- 18 ◎クイズ 隠された東京を捜せ！
- 23
- 24
- 25



表紙の絵：春 待ちあわせ

いわしま あゆ
イラストレーター
東京生まれ。2003年よりグラフィックデザイナーとして活動。デザインプロダクションを経て2006年よりフリー。現在はイラストレーターとして活動する他、本の装丁や企業のデザインディレクションなどで活動中。第2回東京装画賞入選。